

紫外可視分光光度計の測定に必要な実験器具

———溶液試料の場合———

- ✓ 溶液試料
 - 吸光係数を測定する場合は、濃度を正確に決めて調製してください。一般に分光光度計では、モル吸光係数を用います。
- ✓ 分光分析用 2 面セル（蛍光分光用の 4 面セルでも問題ない）
 - 材質にご注意ください。主に低波長側の測定可能な波長範囲が異なります。また、プラスチックセルは耐溶媒性などが異なります。
- ✓ ピペットのセット
 - パスツールピペットやマイクロピペットなど、特に指定はありません。
 - セルに移すときに容量を測定する必要はないので、メスピペットやホールピペットは不要です。
- ✓ 溶媒
 - ブランク測定や洗浄に必要になりますので、試料を溶かしたものと全く同じものをご用意ください。
 - 溶媒は分光分析用のグレードを使用することが多いです。分光分析用は、メーカーが品質を保証しているものとなります。
 - 不揮発性の溶媒の場合は、それを洗浄できる揮発性の溶媒もご用意ください。ミリ Q 水は実験室に用意があります。
 - 有機溶剤などの溶剤を使用する場合は、事前にセンターで公開している「溶剤等の使用についての手引」をご確認ください。使用が許可されていないものもあります。不明なものは、必ず SDS (Safety Data Sheet) を確認してください。
 - 上記の手引きに記載がありますが、洗浄ビン等の開放型容器をそのままの状態を持ち運ぶことはできません。使用したい場合は、現地で密閉できる容器から移し替えて使ってください。作業はヒュームフード（ドラフトチャンバー）内で行ってください。
- ✓ 廃液ビン
 - 有機溶剤を使うときは、密閉できるフタのあるものをご用意ください。
- ✓ カゴ・ゴミ箱など
 - ガラス器具などは持ち帰りが必要ですので、ご用意ください。
 - 溶媒に濡れていなければ、キムワイプ等の紙ごみは廊下に設置しているゴミ箱に捨てられます。濡れている場合は、密閉容器に入れて持ち帰る必要があります。
- ✓ 保護具等
 - 必要に応じて各自でご用意ください。

———諸注意———

- 当センターの装置は、粉末測定用のオプション（反射ユニット・角度可変ユニットなど）がありませんので測定できません。
- 当センターの装置は、ダブルビーム法の機構です。必要なセルの数が1つの場合と、2つの場合があります。詳しくはマニュアルを参照してください。